

## 安芸太田町長期総合計画審議会（第2回会議）議事録（主な意見）

日 時： 令和6年3月22日（金）13：30～

場 所： 安芸太田町東館2階大集会室

出席者： 21人中13人

### 1. 開会

（会長）今日は第2回審議会です。前回は安芸太田町の色々な課題について、数字や口頭で説明があった。こういった課題を洗い出すためにもう一つ大きいのが、町民の方々のご意見となる。今回は一般町民に対するアンケート、中学生・高校生に対するアンケートがある。その中の要点を整理しながら、こういった課題があるか、年代ごとの違いがどこにあるかなどについて議論しながら、今後の計画を策定するにあたり主要課題をリストアップしていければと思う。どうぞよろしくお願いいたします。

### 2. 議事

（事務局） 第2次長期総合計画の主な取り組みについての報告（資料2）  
アンケート調査結果及びヒアリング結果についての報告  
（資料3）（資料4）（資料5）（資料6）（資料7）

（会長）資料が多く大変と思うが、こうした課題から次期計画に向けての主要課題を皆さんで自由にご発言いただきながら整理していければと思う。今日は、数ある課題のうち例えば8項目に絞るとか、目標は設定せずにそれぞれの立場から自由にご意見をお伺いできればと思う。出てきたアンケート結果の中には、当たり前だと思われるものもあるかもしれないが、アンケートを集計してみるとにより、他の項目と比べてどうか、相対的な位置づけがわかる。また、年齢別、地域別にどんな差があるか、濃淡があるかどうか。さらに、前回と比べてどういった方向に変化したかといった貴重なデータがたくさん含まれている。質問でも結構なので挙手をお願いしたい。

（委員）一般アンケートの属性のところを見ると、若い年代の回答率が非常に低く、60代以上の回答率が高いので、そういう方の意見が重点的に反映されているのではないかと。正直な思いでは、若い方の回答率がもう少しあがるのかなと思う。また、今更、加計、筒賀、戸河内と分ける必要があったのだろうか。なんの根拠もない。今後できればアンケート調査については旧町ごとの区分でのアンケートをしないほうがいいのではないかと。今後の調査につい

てはそのようにお願いしたい。

(事務局) 回答率は若年層と高齢者で違うため、全体で見たときには回答率が若干影響するかもしれないが、後半は年齢別にクロス集計しており、回答率が低い中でも若年層はこういった傾向がある、高齢者にはこういった傾向があるというという形で、見えてくる課題を分析している。

地域については以前もご意見いただいたが、今回は地域別でどのような課題があるかをみた。地域によって回答が異なるなど、参考になるアンケート結果だと思っている。地域別でとったアンケート結果をどこまで今後の施策に活かしていくかというのはあるが、地域による特徴が今回のアンケート結果に出ていると思っている。例えば、一般アンケート 59 ページの、定額タクシーの運行についての評価をみると、地域ごとで評価されている方の割合が異なる。また、次のページの morica の評価についても、地区別に評価の割合に差異がある。

(委員) 私は加計高校の生徒寮で働いているので、高校生の声や生活について聞いていただきたい。高校生は寮と学校で忙しく、それ以外の場所はない。アンケートをみても、「レジャーや趣味を楽しむ場所や機会」、「学校以外でスポーツを楽しむ機会」の満足度が低いので、高校生と地域のつながりがもっと増えると良いと思う。

また、空き家について思うことは、一人暮らしできる家が少ないということ。シェアハウスを増やすなどの対策ができれば、一人暮らしでも移住しやすい町になると思う。

(会長) 具体的な事業の提案もいただいたので、今後考えていければと思う。高校生については、アンケート調査の「安芸太田町に誇りや愛着を感じますか」の結果をみると、前回も今回の調査も8割以上が誇りを持っていると回答している。これは、高校の様々な取組、そして地域で支える取組がこの結果につながっているのだと思う。ただ、定住するかどうかは別だが、進学や地域外でいろいろなキャリアを積んだ後、10年くらいして帰ってくるという仕組みを、まずは雇用確保だが、鮎や鮭が帰ってくるように、何年か先に雇用の場、活躍できる場を考えていく仕組みが必要。

(委員) 一般アンケートの属性について、全体の人口比率からこのようになったのかなと思うが、若年層に向けての発送件数が少ないのはなぜか。

(事務局) 回答者の年齢別属性については、人口構成の比率から計算してこのような形になった。19歳に関しては全員に発送した。

(委員) 19 歳については了解した。全体的にみて、人口比率でやられたということとはわかる。30 代が少ないのではと思うが、何か理由はあるのか。

(事務局) 30 代についても同様の理由でバランスをみて計算し、発送している

(会長) 確かに年齢構成が元々高齢者のウエイトが高くなっており、回収率も当然変わってくる。本文では細かく年代別に比較をしており、重要な参考資料であるが、資料 7 ではさらに特徴を分かりやすくするために、59 歳以下と 60 歳以上に分けて、コントラストというかそれぞれの違いを比較している。

同じように、3つの地域別に比較をすることについて、なぜ今更という思いもあると思う。もちろん、町が一体となって取り組む場合には、旧町村の意識はなくさないといけない。ただ、施策・事業をする場合には、町で一律に進める場合もあるが、やはりそれぞれの地域の特性を考えながら進めざるを得ないと思う。資料 7 のような形で、3 地域別に 3 つの輪をえがくことができる。その輪が交わる真ん中に出てくるのは、インフラや災害の問題などとなる。そうは言いながら、3 地域別に整理をしていくとそれぞれの特徴が出てくる。例えば、戸河内では、唯一出てくるのが商工業の問題。また、戸河内と加計で共通するのは、企業立地や若者の定住対策。加計だけというのはないが、加計と筒賀で共通しているのが鳥獣対策。筒賀はかなり特徴があり、農林業の振興や自然環境保護、里山保護といった、他の地域とは異なる特徴が出ている。こういった違いを参考にしながら、こういった場で議論し、少しずつ地域の特徴を反映させていくことができればと思う。

(委員) 有害鳥獣について、山間部では特に問題になっている。農業や、河川、漁業組合だけでなく、熊など人にも危害を与える恐れがある。難しい問題であるが、県にかけあっても話が前に進まない。だからといって放っておくと過疎化がさらに進む。役場としてももう少し対策を強化してもらいたい。

(委員) 中高生のアンケートを見ると、自然環境や人間関係といった魅力があり、非常に住みやすいという高評価につながっており、前回よりもパーセンテージが上がっている。一方で、将来住み続けるかという、逆に減っている。どのような施策によって地域への定着率をあげられるのか。この辺りをもっと掘り下げていただきたい。

(委員) これまでの調査の結果をまとめられるのは大変だったと思うが、量が多く、頭の中が整理できない。誰もがわかるような形にまとめてほしい。この膨大なアンケートは、基本的に長期総合計画の主な取組の評価だと理解は

するが、もう少しわかりやすくないか。

(会長) 資料7のような形はいかがか。これは、アンケートとヒアリングの結果から、エッセンスだけ抜粋したもの。委員の方のご意見をいただきながら、次回はよりわかりやすい資料を用意していただきたい。

(委員) 私たち委員は地域を代表してこの会議に出席しており、地域に戻ってどんな内容だったかを伝える義務がある。地域の一人一人が、自分たちの問題について話し合いが行われているということを認識してもらうためにも、委員の誰もが理解しやすいように工夫していただきたい。

(会長) 場合によっては高校生に、わかりやすいイラストなどでエッセンスをまとめた資料を作ってもらおうということも今後考えていきたい。今回の調査結果のフィードバックを広報誌に載せる計画はあるか。

(事務局) アンケート結果は広報誌に部分的に掲載している。資料7を出来る限りわかりやすくというご意見があったかと思うが、分厚いアンケート結果だとわかりにくいので、資料7でアンケートから見える課題を整理している。はじめに、59歳以下と60歳以上で、重点化、見直しの領域をグループ分けした場合、中心の共通している課題は、7項目ある、2ページのグラフでは、各年齢共通して不安のある項目は「通院や買い物」の割合が高く、3ページでは、前回アンケートとの比較でポイントが高くなった項目としては、「企業立地」や「公共交通」等の項目があがっている。  
これらの結果を課題整理につなげていく。

(委員) アンケートは本当によく考えて作っていただかないといけない。資料2の7つ政策分野の問題点を把握し、どのような対策を進めて、将来に結び付けるのか。それらに対応した設問にする必要があったのではないか。

(事務局) これまでの施策、取組みとアンケートとの関連性といったところもわかるようにまとめてほしいということで理解し、工夫したい。

(会長) 資料2には7つの政策分野とあるが、これはあくまで現在の長期総合計画の柱であり、今議論しているのは、この7つを6つにまとめるのか、或いは、新たに分野を設定して8つにするのかといったことであり、アンケート結果を材料に、みんなで決めていくというふうに受け止めていただきたい。

(委員) アンケートについては、第二次総合計画に対する評価、そして時系列的な評価の比較、そこで住民の方がどういうふうにとらえていらっしゃるのか、重要だと思っていることは何なのかを整理したということだが、時系列的にいうと、過去にやったことに対する評価があり、今日の前に顕在化している困りごとが表れている。今回、長期総合計画をたてようと考えたときに、10年後はどうあるべきか、そういうことに対して住民の方がどう考えているのか。中学生や高校生が、10年後の安芸太田町はこういうものだ、というような未来の将来ビジョンは今回のアンケートでは出ていないと思う。これらを今後どのように拾っていったら、どのように長期総合計画に反映されていくのかを教えてください。

(会長) これこそ皆さんで今議論していることなので、今のようなご提案をどんどん積極的にしていただければと思う。まずは5年後 10年後の大きな目標を具体的に進めていくための政策・事業は何かということ、これらの材料を元に議論していく必要がある。先ほどのように、高校生の評価は高まっているのに定着率がない。そういう人たちにとどまってもらうためにはどうするのかという町の将来イメージのようなものも本日の議論の中で出てきたと思う。

(委員) その議論は、委員さんだけではなく、もっと広く町民の方が思っていることを今後も拾っていくのか、あるいはこのアンケートから拾わなければいけないのか。

(会長) ある程度の案ができれば、パブリックコメントとして町民の方にもう一度フィードバックして、ご意見をいただくという運びになると思う。

(事務局) 一般アンケートの 28 ページで「安芸太田町の将来像について」という形のアンケートをとっている。全体でいうと、「子育て環境や教育環境が充実し、次世代をはぐくむ町」「道路・住宅・下水道・情報化など、生活環境が整った町」「地場産業や工場が立地し、働く場がある町」の順だが、前は地場産業が2位であったが、今回は生活環境が上回るという結果であった。

このような結果を踏まえ、ご意見をいただく場でのテーマ等を設定していく。

(委員) このアンケート結果を見てなるほどと思うのは、日本全国どこの人口減少地域でも結局は同じような将来像が出てきているのではないかと思う。安芸太田町としてどのような特徴を持ち、どのような将来ビジョンを

描くのか。他とは違う長期総合計画をこれからどうやって作り出すのかというのがとても重要だと思う。

(委員) 資料2に長期総合計画の主な取組みとして7項目あるが、例えばコミュニティの中に自治振興会の連携数など挙げられているが、最近つくづく思うのが、コロナ禍で行事のやり方が変わり、きずなが薄れてきていると感じる。自治振興会では役員の成り手がなくて、振興会を継続できなくなっている。10年前は48振興会あったが現在はどうなっているのか。実際に機能している振興会はどのくらいあるのだろうか。

役場としての視点だけではなく、実際に実感できる視点があれば、もっと参画しやすくなるし意見も述べやすくなる。その辺りの工夫をしていただきたい。

(委員) 前回、アンケートで拾えなかった若年層の世帯の声は、地域を回ったり懇談会を開いたりして丁寧に拾うということをおっしゃっていた。先ほど委員からも話があったが、その中で将来的なことや、将来展望についてもたくさん拾っていただきたい。

(会長) 資料4・5の中学生・高校生アンケートをみると、自由回答を丹念に拾っている。単に数値で何パーセントというだけではなく、自由回答を出来る限り議論に反映させていくことも重要だろうと思う。

(事務局) 今の課題を中心にヒアリングをさせていただいており、将来展望に関する内容ではなかった。子育て世代などへのヒアリングに向けて今後進めていくので、今回拾えていなかった部分についても拾っていききたい。

(委員) それらをまとめて皆さんにお示ししたうえで、議論ができるのだと思うので、よろしく願いしたい。

(会長) 先ほどの委員の発言に関連して、資料6「住民ヒアリング結果」の2ページにある通り、一部は集落もあるが、自治会振興会ごとのヒアリングを丹念にしている。現状の課題と今後の展望について幅広く集めた資料となっているので、こちらも今後の議論に活かしていきたいと思う。単独の従来の自治会単位では維持できなくなっている。これは広島市も同様で、連合会の中間組織をもう一度組み立てなおそうという議論をしているところ。

今日のような議論について、お帰りの際に思いつかれたことがあれば、事務局へお伝えいただきたい。概要と併せて詳しい結果報告書はホームペ

ージにて公開される予定はあるか。

(事務局) 調査結果についてはホームページにて公開する予定。また広報誌でも順次公開していく。

(会長) それでは事務局より、今後の進め方についてご説明いただきたい。

(事務局) 本日議論していただいた内容やご意見については、整理し、子育て世代や若年層の意見を取り入れながら、次回お示しできればと思う。次回の審議会については6月頃を予定している。

### 3. その他

(事務局) 委嘱している委員の変更があれば、事務局へ連絡してもらいたい。

### 4. 閉会